

新興諸国における高齢者の生活保障システム

調査研究報告書

宇佐見 耕一 編

2009 年 3 月

独立行政法人日本貿易振興機構
アジア経済研究所

調査研究報告書

2008 - I - 14

「新興諸国における高齢者の生活保障システム」研究会

まえがき

世界的に人口の高齢化に対して、様々な問いかけとそれへの対応がなされていることが知られている。本書で取り上げるアジアとラテンアメリカの新興国でも、高齢化は進行し、それに関する議論と政策面および社会での対応がなされている。とはいえ、高齢化の速度のみをみても、それは国により異なっている。東アジアは急速に高齢化が進行しているのに対して、ラテンアメリカの高齢化の速度は比較的遅い。また、インドの高齢化率自体は、他の新興国と比べて低位にあるものの、同国における高齢者の絶対的人口は多い。他方、新興国の範疇に通常含まれないラテンアメリカのキューバは、急速な高齢化が進行している。このように高齢化の速度のみをみても国ごとにその様相は異なり、それに関する社会的議論や対応が異なることは容易に想像される。

高齢化に関しては様々な角度からの議論が行われ、方法論的にも高齢化や加齢を問題とした社会老年学という学問分野が成立している。本書の序論においては、新興国における高齢化を概観し、貧困高齢者がそのなかで社会的な問題の一つになっていることを述べる。続いて、方法論に関して社会老年学の流れを概観し、その主流派に対して批判的な批判的社会老年学を紹介する。

つづいて各国における高齢者と貧困高齢者の状況を明らかにし、各国で貧困高齢者および彼らへの社会保障を中心とした生活保障システムに関してどのような研究が行われてきたのかを概観する。また、公的な社会保障制度を中心に、市民社会組織や民間制度を加えた高齢者、特に貧困高齢者への生活保障システムがどのような制度であり、どのような性格を持つものであるのかを明らかにする。

本報告書で分析の対象とされる諸国・地域はアジアでは、韓国、中国、台湾、香港、インドを、ラテンアメリカからはメキシコ、ブラジル、アルゼンチンの三国に加えて、新興国に含まれないが高齢化の著しい開発途上国としてキューバの事例を取り上げることにする。最後に、貧困高齢者の存在は社会的構造と関連しているとの本書の立場を反映して、メキシコを事例として貧困と教育の関係を分析した論文を掲載する。本書は、アジア経済研究所 JETRO でおこなわれた「新興国における高齢者の生活保障」研究会の1年目2008年度の成果である。

2009 年 3 月 編者